

カルタップ水溶剤 パダン SG 水溶剤	取扱メーカー： 協友アグリ、サンケイ*、ホクサン、 住友化学、琉産 原体メーカー： 住友化学
成分： カルタップ塩酸塩〔ネライストキシン系 PRTR・1種〕…75.0%	性状： 青緑色水溶性細粒 毒性： 劇物 消防法： —

【品目特性】

●害虫の完全致死には時間がかかるが、中毒作用により害虫の摂食、加害活動は速やかに防止される。

●作物体内への浸透性に優れ、また、齢の進んだ幼虫にも強い作用があるので幼虫食入後でも防除効果が高い。また、速やかに浸透するため、散布後の降雨による影響が少ない。

●水に非常に溶けやすい顆粒タイプの薬剤である。

●顆粒剤のため、開封時、薬液調製時の粉立ちが少ない。

●ペースト肥料に混和し、側条施肥田植機で田植・施肥・害虫防除を同時に行うことができる。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

●本剤を使用した場合には、チオシクロム又はベンズルタップを含む剤は使用しない。

●ニカメイチュウに対する散布適期

第1世代：発蛾最盛期の7～15日後

第2世代：発蛾最盛期の5～10日後

(2回散布の場合は発蛾最盛期とその7～10日後)

●コブノメイガに対する散布適期

発蛾最盛期の7日後ごろ。

●ペースト肥料との混和による側条施用処理

○田植時に本剤をペースト肥料に混和し、専用の側条施肥田植機で施用する。

○薬剤を水に溶かさずペースト肥料に直接混和して使用することができる。

○同一の害虫を防除対象とする育苗箱施用薬剤と併用すると薬害のおそれがあるのでさける。

○使用した機械を洗浄する際は、洗浄水が水

路などに入らないように注意する。

○アルカリ性ペースト肥料との混和は有効成分が分解するおそれがあるので、混和可能が確認されているペースト肥料以外との混和はさける。

〈イネシנגレセンチュウ〉

●必ず乾燥もみを用いる。種もみ消毒殺菌剤との混用に当っては、必ず低濃度で24時間浸漬とする。

〈野菜〉

●コナガ、アオムシに対しては極めて安定した効果があるが、ヨトウムシに対しては特に齢期が進んだ場合効果が不十分なので、他剤との体系で使用する。

〈アブラムシ〉

●7～10日間隔で連続して散布する。

【薬効・薬害等の注意】

●ボルドー液とは使用直前に混合する。

●イネシングレセンチュウ防除のため種もみ消毒をする場合、催芽種では薬害のおそれがあるので催芽前に処理する。

●びわのナシヒメシンクイには新梢、収穫跡、芽かき跡、剪定跡などに食入した幼虫を対象に散布する。

●ほうれんそうには高温時は使用しない。

●ミナミキイロアザミウマ防除には、初発生後直ちに、かけ残しのないよう丁寧に散布する。

●シクラメンに使用する場合、予備散布により薬害の出ないことを確認後使用する。

●ガーベラには品種（パープルレイン、マンボなど）によって薬害を生じるおそれがあるのであらかじめ薬害のないことを確かめたうえで使用する。

●かき、大粒種ぶどうには、樹勢の弱い場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しない。

●適用作物（かき，キウイフルーツ，あぶらな科野菜）の葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。

●適用外作物（たばこ，なす）への葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】

●共通注意事項6．街路・公園・堤とう等で使用する
場合の注意事項を参照。



【適用と使用法】

●散布に使用する場合

作物名	適用害虫名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを含む 農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ	1500 倍	60 ～ 150 ℓ	21 日前 まで	6 回以内	散布	6 回以内 (浸種前は 1 回以 内。浸種後から 直播での種時 又は移植時ま での処理は 1 回以 内)
	イネハモグリバエ	1500 ～ 3000 倍	—	浸種前	1 回	24 時間 種もみ浸漬	
	イネシガラセンチュウ						
は と む ぎ	アワノメイガ	1500 倍	60 ～ 150 ℓ	14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
とうもろこし 飼料用とうもろこし		1000 倍	100 ～ 300 ℓ	21 日前 まで			
か き	チャノキロアザミウマ カキホソガ イラガ	1500 倍	200 ～ 700 ℓ	45 日前 まで	4 回以内		4 回以内
	カキノキマダラメイガ	1500 ～ 3000 倍					
く り	カキノヘタムシガ						
	モモノゴマダラノメイガ ネスジキノカワガ			裂果前	3 回以内		3 回以内
び わ (葉)	ナシヒメシンクイ			春芽伸長 初期まで 但し、収穫 90 日前まで	4 回以内		4 回以内
大粒種ぶどう	チャノキロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ スカシバ類			21 日前 まで	5 回以内		5 回以内
キウイフルーツ	キイロマイコガ キウイヒメヨコバイ	1500 倍		30 日前 まで	3 回以内		3 回以内
キ ャ ベ ツ	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ナメクジ類			14 日前 まで	4 回以内		4 回以内
は く さ い	コナガ アオムシ アブラムシ類 カブラハバチ ナメクジ類		100 ～ 300 ℓ	7 日前 まで	3 回以内		3 回以内

作物名	適用害虫名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを含む 農薬の総使用回数	
だいこん	コナガ アオムシ アブラムシ類 カブラハバチ キスジノミハムシ ハモグリバエ類	1500 倍	100～ 300 ℓ	7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内	
はつかだいこん	コナガ				1 回		1 回	
なばな	コナガ アブラムシ類				3 回以内		3 回以内	
ブロッコリー	コナガ				4 回以内		4 回以内	
チンゲンサイ	ハモグリバエ類 コナガ			前日まで	3 回以内		3 回以内	3 回以内
さやえんどう 実えんどう	ウラナミシジミ ナモグリバエ	1500～ 3000 倍						
さやいんげん	マメハモグリバエ	1500 倍		7 日前 まで	2 回以内		散布	2 回以内
ほうれんそう	ミナミキイロアザミウマ アシグロハモグリバエ シロオビノメイガ							
レタス	ハモグリバエ類 ナメクジ類			14 日前 まで	3 回以内			3 回以内
非結球レタス	アブラムシ類				2 回以内			2 回以内
たまねぎ	アザミウマ類			前日まで	3 回以内			3 回以内
ねぎ				3 日前 まで	2 回以内			2 回以内
ばれいしょ	ジャガイモガ若齢幼虫			7 日前 まで	6 回以内			7 回以内（種い も粉衣は 1 回以 内、散布は 6 回 以内）
ざいも	ネグサレセンチュウ	300 倍	—	植付前	1 回	30 分間 種いも浸漬	1 回	
しょうが	アズキノメイガ アワノメイガ	1500 倍	100～ 300 ℓ	7 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内	
くわい	ハスモンヨトウ			30 日前 まで	3 回以内		3 回以内	
ふき	アザミウマ類 アブラムシ類 フキノメイガ			7 日前 まで	2 回以内		2 回以内	2 回以内
ふき (ふきのとう)				120 日前 まで				4 回以内（水溶 剤の処理は 2 回 以内、粒剤の処 理は 2 回以内）
しそ	アザミウマ類	3000 倍		7 日前 まで	2 回以内		2 回以内	
ホッパ	アズキノメイガ	1500 倍	200～ 700 ℓ	7 日前 まで	3 回以内		3 回以内	
茶	チャノホソガ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ		200～ 400 ℓ	摘採 10 日 前まで	1 回		1 回	
いぐさ	イグサシンムシガ		100～ 300 ℓ	—	3 回以内		3 回以内	
ガーベラ	マメハモグリバエ			4 回以内	4 回以内			
シクラメン	ミカンキイロアザミウマ			発生初期	5 回以内		5 回以内	

作物名	適用害虫名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを含む 農薬の総使用回数
樹 木 類	シャクトリムシ類	1500～ 3000倍	200～ 700 ℓ	発生初期	3回以内	散布	3回以内

●ペースト肥料と混和して側条施用する場合

作物名	適用害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを含む 農薬の総使用回数
稲	イネドロオイムシ	100～200 g	移植時	1 回	ペースト肥料 に溶かし側条 施肥田植機で 施用する。	6回以内 (浸種前は1回以 内、浸種後から直 播では種時又は 移植時までの処理 は1回以内)
	イネミズゾウムシ コブノメイガ ニカメイチュウ	200 g				